別紙様式1

令和4年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）

学校名　三原市立第三中学校　　校番（　3　）

a 学校教育目標	仲間とともに輝け三中 ～果敢に挑戦する生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 社会や世界の状況に対応し，よりよい社会を創るために挑戦する生徒が育つ学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10 月 h 達成値	2 月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	○資質能力ベースの学びが展開され，生きて働く力が育まれる。 ○豊かな表現力と協同性が育まれる。	○学力調査において，単年度で全国平均比較で3ポイント向上させる。 ○批評的思考力や相手意識を持った表現力（パブリックスピーキング）を向上させる。	○学習者基点の能動的で深い学びにつながる校内授業研究の充実 ○第三中学校区学力向上プロジェクトによる小中連携及び，結果にコミットできる授業改善 ○第三中「授業づくり徹底5項目＋パブリックスピーキング」を全ての授業で実施 ○基礎学力を培う学力向上学習（GK），家庭学習の充実とともに，知識を活用する場を設定 ○情報端末機器を活用した個別最適な学びの推進	・学力調査における年間全国比の伸び率 ・授業交流週間の実施 ・教育研究推進に係る校内研修実施 ・第三中学校区学力向上プロジェクト推進委員会の実施	3P 3回 6回 3回	ー 2回 18回 0回	2.4P 3回 20回 0回	97% 100% 333% O%	B A A D	・目標達成には至っていないが，目標に近づけることはできた。 ・授業交流週間を各学期に1度ずつ設定し，互いの授業から学びあったり，助言し，改善していくことができた。 ・各教員一人一研究授業を実施することができた。 ・小学校との時間の都合がつかず，校区学力プロジェクト推進委員会を実施することができなかったが，授業交流週間の実施，参加等について知らせることはできた。。	・毎朝のGKタイムを利用したり，家庭学習の工夫，chomebookの効果的な活用を行い，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っていく。 ・継続して取り組み，他の教員の良さを学び，助言し合うことで授業改善につなげていく。 ・研究授業に向け，単元の開発，指導案づくりを通して，授業力の向上，分かる授業の創造に継続して取り組んでいく。 ・中学校に入ってくる生徒の課題，小学校が抱える課題を共有する場を設け，共通に取り組む事項を確認していく。	○			・先生方の力量アップのための研修が数多く行われていており，素晴らしと思います。これが生徒の学力アップにつながると思います。 ・授業交流で，先生の授業アップが見える化できれば面白い。 ・小学校との交流で基礎学習をしっかり取り組まれている。授業参観したが，みんなよく頑張っている。
				生徒アンケート ①「授業がよくわかる」の質問に対する肯定的評価 ②「Chromebookを使った学習はよくわかる」	80% 80%	83% 87%	81% 86%	101% 107%	A A	・目標値である8割を超えることができた。授業改善やGKの小テストや再テストを通して，少しずつ基礎的な知識・技能の定着してきている。 ・目標値を超えることができた。授業内でのchromebookの活用の頻度もあがったり，家庭学習でのchromebookの使用場面も増えた。	・生徒が分かる授業の創造のため，授業研や授業交流週間，研修等へ参加し，学びを交流していく。GKを活用し，基礎的な知識・技能の定着状況の確認及び再テストによる定着を継続して取り組む。 ・chromebookの活用について，授業交流等を通して効果的な活用方法，場面について共有していく。	○			
豊かな心・健やかな体	○積極的な生徒指導の充実～ピア・サポートによる親和性の高い集団づくり～ ◎小中連携の推進により，全職員が生徒指導を含む全ての教育課程で義務教育を見通せるようになり，結果，不登校生徒が減少する。	○全生徒が粘り強く，助け合うことができるようになる。 ○忍耐力（レジリエンス）の向上を図り，問題行動を減少させる。 ○不登校生徒を前年度と比較し，2/3以下とする。	○自主的・自立的な生徒会活動の推進 ・生徒が主体となる「三中チャレンジカップ」の実施 ・「学校生活のきまり」を改善する等，主権者教育の促進 ・縦割り集団によるピア・サポート活動の充実 ・自己肯定感が育まれる肯定的な評価 ○三中スタンダードの徹底及び質の向上 ・挨拶，返事，言葉遣い，無言掃除	・生徒アンケートにおいて 「学校が楽しい」 「友達と話し合い，考えを広めていける」 ・「学校生活のきまり」の見直しに係る生徒等を含めた協議	90% 85% 3回	94% 83% 2回	94% 78% 3回	104% 92% 100%	A B A	・三中チャレンジカップや学習・生活環境を整えるために強化週間を設定する等，生徒が主体となって学校づくりに参画する機会を多く作った。また，生徒会が中心となってボランティア活動に取組，積極的に参加する姿が見られた。 ・「決まり見直し検討委員会」を立ち上げ，「学校生活のきまり」について生徒アンケートを実施し，生徒会が代表となって教職員，管理職とともに協議した。 ・三中スタンダードの徹底について，月1回の集会(感染症対策のためオンライン)を開催し，月ごとに生活の様子や課題について確認し，改善について呼びかけた。	・生徒会活動，生徒委員会を活性化させ，三中スタンダードを始めとする学習環境や校内整備を実施する。生徒が主体的に安心，安全な学校づくりに参画できる体制づくりをしていく(三中チャレンジカップ，強化週間の設定)。 ・「決まり見直し検討委員会」の協議した内容について，全校へ周知していく。	○			・生徒の表情が明るく，元気がある。 ・ボランティア活動など，生徒の自主的な取組が活発になった。理由を分析して，生徒の主体性の発揮につなげていってほしい。 ・生徒の交通ルールについては引き続き指導をしてほしい。交通量の多いところもあるので，心配である。 ・不登校の生徒も増加しており，この問題は学校の努力だけでは解決が難しいと思います。
			○広島県生徒指導サポート実践指定校の取組 ・生徒指導主事を窓口とし，学年主任を中心とした体制を構築 ・特別支援の視点による生徒アプローチの実施 ・不登校生徒とその他の長期欠席者に対する統一取組の徹底 ・不登校傾向を示す生徒の早期発見と迅速かつ適切な対応 ・関係機関との協働的な連携実施	・不登校生徒数の減少 100日以上の不登校数 30日以上の不登校数 完全不登校 ・教育相談委員会の開催	10人 17人 0人 10回	18人 27人 2人 6回	13人 33人 1人 10回	目標値増減 3人増 16人増 1人増 100%	C C C A	・毎週生徒指導委員会を開催し，学年の様子や課題等について協議した。積極的な生徒指導，不登校未然防止の取組を早期に対応することができた。 ・不登校生徒，長期欠席者に対して，授業の進度，課題(宿題等)について知らせることにより，学校の様子や学習について支援を継続し，リモートによる授業視聴を始めた。 ・教育相談委員会の定期開催を継続実施し，配慮や取組が必要な生徒についてSSW，SC，関係機関(三原市子育て世代包括支援センター等)と連携し，対応した。	・気になる生徒，不登校生徒について支援を継続していく(学習支援，SSW，SC)。 ・家庭環境による要因が大きい生徒について，SSWと連携しながら，行政への協力依頼を継続していく。		○		
信頼される学校・働き方改革	◎働き方改革が推進され，学校教育力が向上する。	○行事の精選と学校組織力を向上させ教職員が生徒に向き合う時間を向上させる。	○行事の精選と定時退校日の完全実施 ○機能するカリキュラムマネジメントにより効果的な校務運営	・学校行事の規模縮小 ・超過勤務月60時間以内	3項目 70%	2項目 72%	3項目 75%	100% 107%	A A	・コロナ禍の中対応もあり，3年生の修学旅行を1泊に変更した。また，合唱コンクールを行っていた学習発表会は行わず，参観日に各学年の学習の様子を映像で紹介し，作品展示を行った。教育研究は校内授業研究会に重点を置き，自主公開研究会を開催しないなど，行事の規模縮小を行った。 ・超過勤務60時間以内を目標に掲げ，超過勤務の多い職員について，業務分担を見直すことで，目標を上回る75%の成果を上げることができた。	・来年度以降，コロナ渦以前の学校生活に徐々に戻り，学校行事も復活していくと思われるが，生徒にとっての意義や意欲に重点を置くとともに，職員が生徒に向き合う時間を確保しながら行っていきたい。 ・会議を時間割に組み込むなどして，勤務時間内に業務が進められるようにする。	○			・コロナの問題と働き方改革の関係で様々な行事が見直されているようです。生徒の意欲が高まることを大事に考えてください。
	○通いたい・通わせたいと感じさせる学校を創る。	○普通学級編成を各学年4学級編成とした，様々な縦割りの学校教育を実施する。	○小中連携を通して，小学生及び保護者，小学校教職員に信頼される学校づくり ○環境整備を推進し，美しい学校づくり ○生徒の自治的な活動を活性化する ○行事の充実 ・第3学年生徒をリーダーとした全ての生徒が輝く行事の実施 ○便りやHPを活用した学校教育の発信	・校区内の児童生徒の情報共有 ・主体的な学びに迫る校内研修 ・たより等による広報 ・ホームページの更新	月1回 6回 24回 月2回	月4回 3回 13回 月3回	月4回 6回 24回 月2回	400% 100% 100% 100%	A A A A	・月4回の小中連携を実施し，校区内の学校スタンダードの共通実施に向けての理解を深めることができた。また，第1学年生徒がスムースに学校生活をスタートできるよう，2月に小学校への出前授業を行った。 ・校内研修では，大学の先生を招聘したり，学期ごとの取組について実践をもとに計画的に研修した。 ・生徒の活動の様子を学校だよりで紹介したり，歳時記等でHPに積極的に掲載した。修学旅行では，すぐーるを使い，生徒の様子を随時発信した。	・小中連携を継続して行い，スタンダードの徹底を図っていきたい。 ・校内研修，授業交流週間等，計画的に進めることができた。日々の授業について，より主体的な学びになるように学年等で日常的に交流をするようにしていく。 ・今後も引き続き，生徒の活動の様子などをHPに掲載するなど，タイムリーな情報発信をしていきたい。	○			

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。